

山元委員 御発表資料

発表内容

平成 28 年 10 月 7 日（金）

福岡教育大学 国語教育講座 山元悦子

国語教育の見地から

- 1 コミュニケーション能力概念を検討する
- 2 コミュニケーション能力の内実を捉える枠組を設定する
- 3 枠組から導出される＜コミュニケーションの在り方に関する指針＞づくりにむけて

1 コミュニケーション能力概念を検討する

検討対象 ○話す聞く活動 △話し言葉 ×書き言葉 ×打ち言葉
○対面コミュニケーション

コミュニケーション能力の定義1

言語を介した他者との協同活動の中で、何かを共有・確認していたり、新しい考えを生み出したりする行為ができる能力

(山元案)

言語コミュニケーション行為 : 主体の意図を背景に持った言語・非言語のサインなどによる一連のふるまい

言語コミュニケーション能力 : 言語コミュニケーション行為を営む能力

主張点

- (1) 言語コミュニケーション能力の中核には他者への共感が必要であり、それは共同体の中で他者と情動的一体感を持つことによって、より育っていく。
- (2) 言語コミュニケーション能力の内実は自己と他者の関係性の問題として捉えられる。
- (3) 言語コミュニケーション能力は、その人の所属している共同体の持っている社会的ふるまいや社会文化の内化したものとして蓄えられる。
- (4) 言語コミュニケーション能力を育てる上で目指すところを、地球規模の共同体社会の意識を持った市民性の獲得に置く。それは、その共同体をより望ましいものへと更新していこうとする資質の獲得を意味する。

出典 山元悦子『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』2016年2月 溪水社

コミュニケーション能力の定義2

いろいろな価値観や背景を持つ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、みずから深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力

出典『子どもたちのコミュニケーション能力を育むために～「話し合う」・創る・表現する」ワークショップへの取組』
平成 23 年 コミュニケーション教育推進会議（文部科学省）審議経過報告 教育課程企画特別部会（言語能力の向上に関する特別チーム）における議論においてもこの定義が援用されていたとある。

コミュニケーション能力の定義3

今日求められるコミュニケーション能力としては、二つの側面が重要な要素としてあげられることが多い。一つは対面コミュニケーションの場面において、人間関係を作り上げながらコミュニケーションをとれる、いわば人間関係形成能力とも言い得る側面である。もう一つは、自分の考えや意見などを整理し、根拠や理由を明確にして説得力を持って論理的に伝えることのできる側面である。

出典『国語分科会で今後取り組むべき課題について（報告）』平成 25 年 2 月 18 日 文化審議会国語分科会報告

コミュニケーション能力を捉えるためのキーコンセプト

自己と他者の関係(人間関係形成)／論理的に伝える

受容・共感・協同／チームワーク・合意形成・課題解決

？ 情動(気持ち)を分かち合う 社会共同体の更新

2 コミュニケーション能力の内実を捉える枠組(モデル)を設定する

2.1 個体内の聞く話す活動モデル

資料1

・モデルから取り出せるポイント

インプット段階	聞くスキル	
	他者理解・受容の態度	相手は何を求めているのか等
	状況判断	目的は何なのか,何を求められているのか等
考えの創出段階	論理的思考力	
資源	話し方に関する知識・対人関係表現(敬語等)に関する知識・経験	
アウトプット段階	プレゼンなど(一対他)・対面(一対一)に応じた表現スキル	

2.2 言語コミュニケーション能力の発達モデル

資料2

・モデルから取り出せるポイント

基盤に必要なのは協同的態度の形成

言語コミュニケーションの発達を見取る15の指標 資料3

3 枠組から導出される＜コミュニケーションの在り方に関する指針＞づくりに向けて

3.1 方針

モデルから考えれば、言語コミュニケーション能力は表面にあらわれた言葉遣いだけでは捉えきれない。状況や目的を認知する力や、論理的思考力が背後に必要。

しかし、指針は言語使用レベルで表す方がわかりやすい。

そこで、社会の各分野を想定し、状況や目的によってシーンを設定してそこで展開する望ましいコミュニケーション行為を示してはどうか。

併せて、そこで使われる望ましい言葉表現（ふるまい）を例示する。

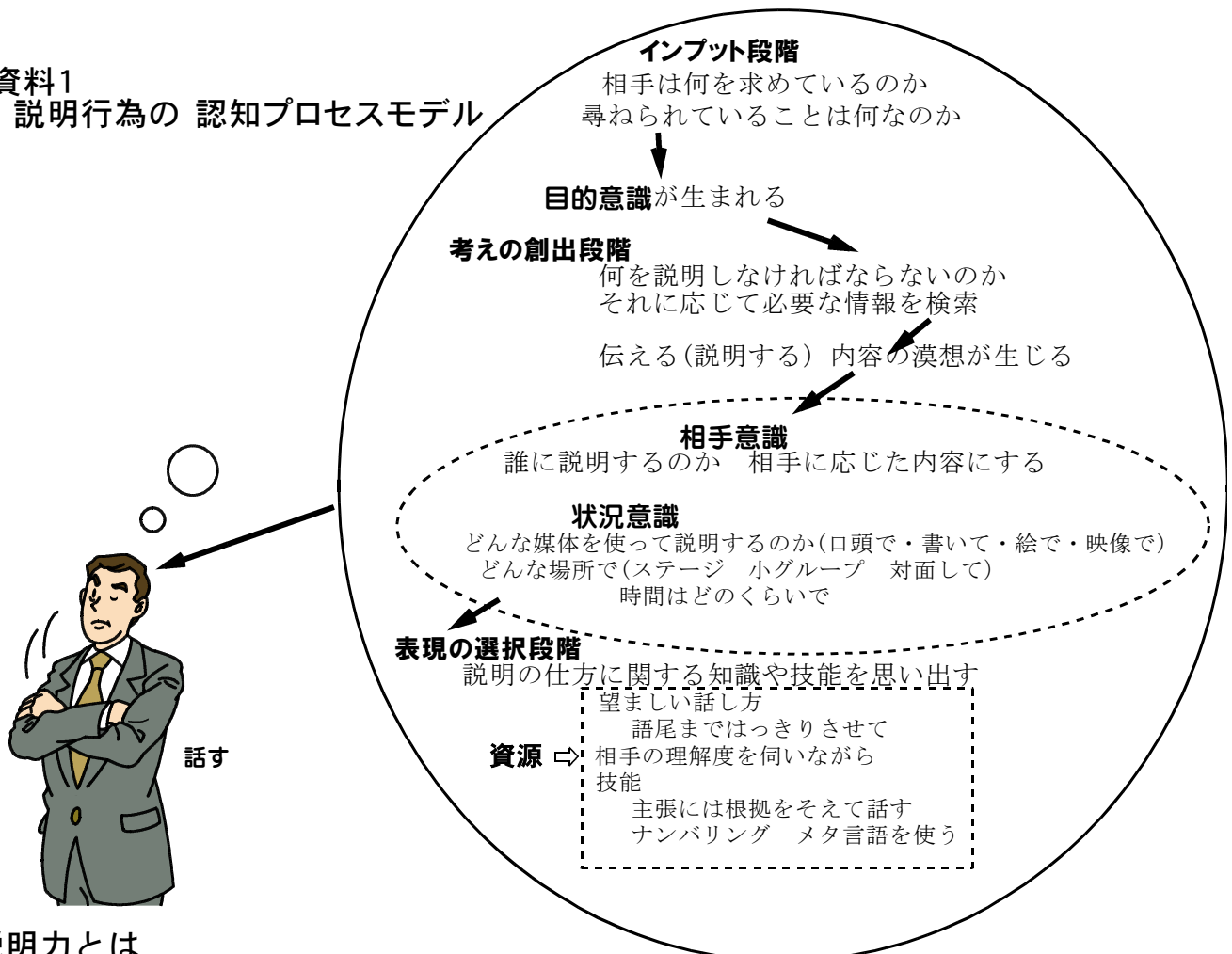
3.2 諸々の社会におけるコミュニケーションの質と内容を整理する

資料 5

3.3 テンプレート例

資料 6

資料1
説明行為の 認知プロセスモデル



説明力とは

このシステムをスムーズに効率的に進めていく力

このシステム自体が精緻化していること

説明力を高めるためには

1 システムを動かす経験を頻繁に与える、→交流活動

2 システムのモジュール(要素) となるものを指導過程において提供する

相手 目的 状況 情報

3 指導過程中に漠想を生起させる時間や手がかりを保证する→発想法 カード ノート

4 説明のための知識や技能を取り出して教える

わかりやすい説明をするための技能(話し方)

A 聞き取りやすくするために

- 1 音量に気をつけ相手の方に声を向ける
- 2 一文をみじかく
- 3 間を取って話す

B 筋道だてて話すために

- 1 主張・理由・根拠で伝える 例：こういう事実・データがあります
- 2 順序立てて話す 例：最初こうするだろ？そうしたらこうなるよ
- 3 つなぎことばを使って話す
- 4 因果関係(原因と結果)で話す ということは〇〇でしょ。こういうことがあった。その結果こうなった
- 5 反論(別の考え方)も予想しながら話す 〇〇ということも考えられるけど 逆の立場からいえばこうだけど

C 相手が理解しやすいように話すために

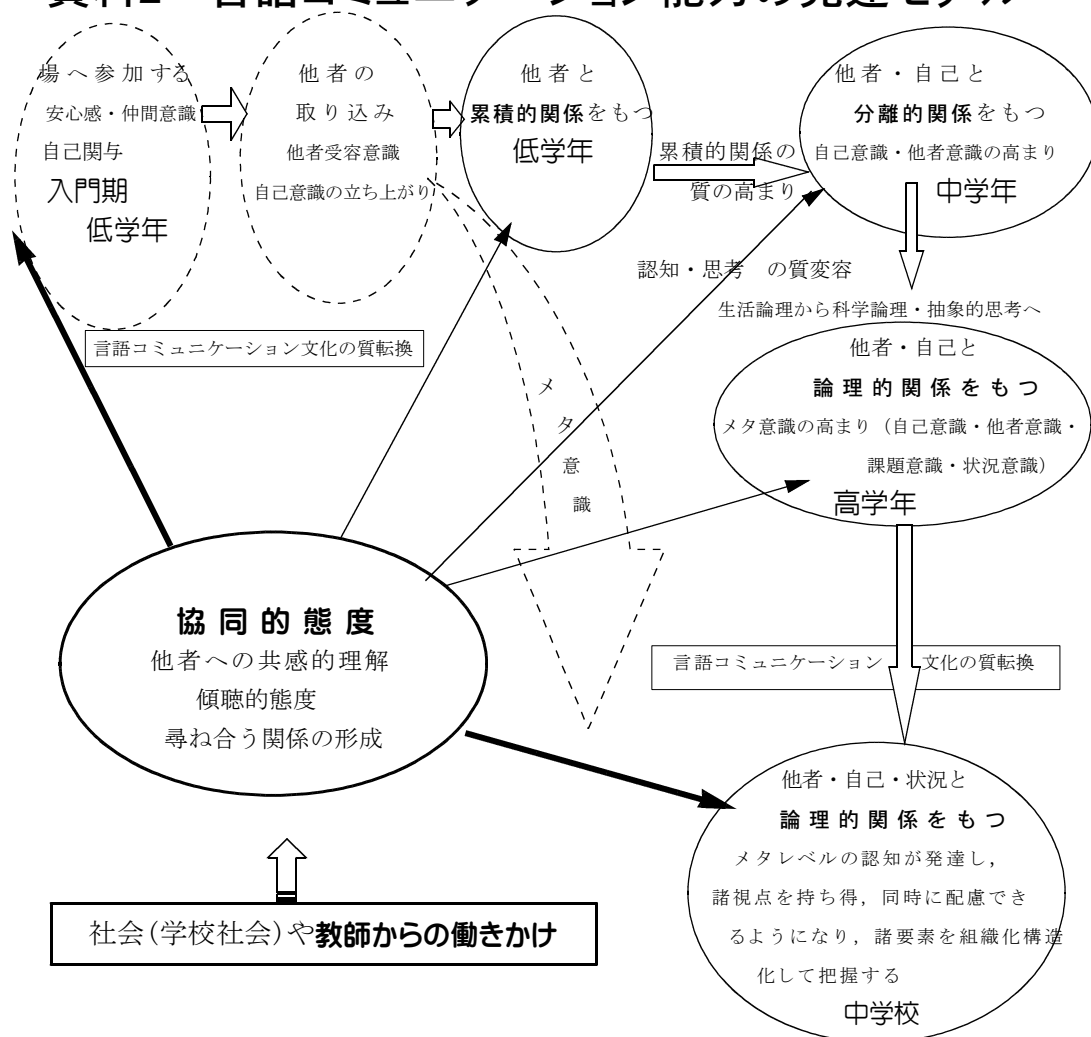
- 1 身振り手振りを添えて
- 2 例をあげる
- 3 比喻を使う
- 4 様子や動きを表すことば(描写表現) やオノマトペを使う
- 5 具体的な名称や数値を使う
- 6 メタ表現を使う(話の流れに関することばや話の内容にラベルを付けることば)

ここからがまとめです ここからは余談ですが ポイントを三つ言います ここまでのことを〇〇と名付けましょう

D 相手との共感度を高めるために

- 1 同じ体験を持ち出す こういうことがあったよね
- 2 相手の理解を確かめる ね、伝わってる？
- 3 相手から聞いた意見を取り込みながら話す 先ほど〇〇さんもそうだったけど
- 4 笑顔やユーモア

資料2 言語コミュニケーション能力の発達モデル



山元悦子『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』
2016年2月 溪水社

資料3 話し合う力を見取る評価指標

H25年度入学 年生			氏名	氏名
レベル	内 容		4月3月	4月3
1 (協同性)	1	何が話し合われているかに注意を向けることができる。	低	
	2	友達の考えを真剣に聞くことができる。	中	
	3	話し合いに参加しようとして尋ねたり反応している。 「もう一回言って。」「いいね。」	高全般	
2 (自己表出)	1	課題について自分の意見を作ることができる。	低	
	2	友達の考えとつないで発言することができる。 「〇〇さんが～言ったけど、私は、」	中	
	3	自分の意見を理由や根拠で整理して伝えることができる。 「〇だと思います。わけは、」	高全般	
3 (自己他者認知・メタ認知)	1	感情的にならず、穏やかに意見を言うことができる。 「～だと思うけどどうですか。」	低	
	2	自分の意見が通らなくても参加することができる。「それでいいよ。」	中	
	3	自分の意見だけを通そうとせずに、友達の意見のいいところも取り入れて、自分が納得したら譲ることができる。「わかりました。」	高全般	
4 (探究・課題認知・メタ認知)	1	課題に沿って考えていくことができる。 「今考えないといけないのは、」	中	
	2	筋道を立てて考えを進めることができる。「ということは、」	高学年中心	
	3	課題について検討したり確かめたりする発言ができる。「仲良くするってどういうことだと思う？」	高学年中心	
5 (状況認知・メタ認知)	1	話し合いの途中で意見を整理したり、まとめたりすることができる。「今までの意見は2つに分かれるね。」	高	
	2	話し合いが逸れたら軌道修正することができる。「ちょっとずれてない？」	高学年中心	
	3	全員が参加できているか判断しながら進めることができる。 「〇〇さんはどう思う？」	高学年中心	

資料4 論理的思考力

思考様式	具体的言語活動例
① 主張・理由・根拠で考える	主張・理由・根拠で話し、整合性を検討する。三角ロジック図を用いて整理する。
② 比較・分類・構造化	マッピングで広げ、出たアイデアを構造的に整理する。 いくつかのことから共通するものを取り出したり共通点で束ねる。
③ 縦思考（具体と一般の往復）	具体化と一般化。抽象のレベルの上げ下げ。全体から俯瞰する（例：学級の問題を学校全体の視点から見る）。意見を束ねた上で見出しやってくる言葉を考える等。
④ 推論（相手の意図をくみ取る）	相手と意見が違うときは、反対意見を主張するのではなく、相手の意見の意図を推測し、もっと詳しくわかり合おうとする。一つ一つの考えについて、どこが納得できないかを伝え、違いを尋ね合い、きめ細かく追究していく。
⑤ 多面的思考	様々な視点から考える。「○○の立場から見ると」、「逆から言うと」と考えていく。
⑥ 分析	話題を分析・分節化して捉え、順序立てて考えていく。 課題追究のために何を話し合えばいいか手順を決めて整理する。

森田信義・山元隆春・山元悦子・千々弘一編（2010）『新訂国語教育学の基礎』溪水社

資料5 社会生活の諸分野におけるコミュニケーション活動の質とそこで必要な言葉や態度

			コミュニケーションの質		そこで必要な言葉や態度
文化庁が描く理想的な言葉の使い手	社会生活	職業生活:職業人としての活動に関わる面	チームで活動する 問題や課題の発見・分析・適切な計画を立てて課題を解決する	協同的 態度	職業集団組織維持のためのマナーを心得る ほうれんそう
					問題追究のために論理的に話す
					傾聴(相手を理解しようとして聞く)と自己主張のバランスを取りながら意思疎通する
	文化生活	市民生活:社会参加する市民としての活動に関わる面	助け合う・共同体を維持し更新する		双方の主張の調整を図り調和を保つ
					共同体組織維持のためのマナーを心得る
		自らの知識や教養を高め文化的活動に関わる面	創造的活動・啓発的な活動をする		他者尊重に立ったやわらかい表現「僕から話すね。」「それもあるけどこれはどう。」「〇〇と思うけどどうですか。わかるように話す 誤解されぬよう話す
					共創的活動を共にするための言葉や態度:受けとめる「おもしろいね。」「こうしたらどうかな。」「一緒に考えよう。」

資料6 諸社会分野別コミュニケーションシーン テンプレート

状況	職業生活:企画会議,結果報告等	
目的	依頼 報告 提案 説明等別に作成	
相手	商品開発を共にしているチーム会議のメンバー	
やりとり	Aさん 「 」 Bさん 「 」 Cさん 「 」	使いたい言葉例

状況	市民生活:自治会の寄り合い	
目的	地域行事を決める	
相手	同じ自治体のメンバー	
やりとり	Aさん 「 」 Bさん 「 」 Aさん 「 」	使いたい言葉例